

平成28年度「こころのケア」シンポジウムの開催

兵庫県こころのケアセンターの日頃の研究成果の発表と、「熊本地震を通して考える災害後のこころのケア」についての講演および「災害後の外部支援のあり方を巡って」をテーマとしたパネルディスカッションから成る「こころのケア」シンポジウムを開催いたしました。

- 1 日時：平成28年11月16日（水） 13：30～16：30
- 2 場所：兵庫県こころのケアセンター大研修室
- 3 参加者数：自治体職員や教育・保健・福祉関係業務従事者など約100人
ご来賓として2名の県議会議員の方にもご出席いただきました。
- 4 内容

開会にあたり、亀岡智美副センター長兼研究部長が、シンポジウム開催の主旨、当センターの活動状況を含め、あいさつを行いました。

その後、福井貴子主任研究員が「DPA Tの効果的な運用に向けての研究」について報告を行いました。都道府県等が行うDPA T（災害派遣精神医療チーム）研修カリキュラムの参考とするため、DPA Tにはどのようなコンピテンシー（役割についての者がその役割を果たすために持つべき力）が求められるのかを、全国の専門家を対象に調査し、その結果を発表しました。

次に、矢田部裕介熊本県精神保健福祉センター次長に、「熊本地震を通して考える災害後のこころのケア」について講演を行っていただきました。平成28年4月に起こった熊本地震において全国のDPA T（災害派遣精神医療チーム）を受け入れた当事者として、問題点とその改善方法、現在の状況や長期目標について詳しく説明していただきました。

パネルディスカッションでは、中山伸一兵庫県災害医療センター長は、DMA T（災害派遣医療チーム）の立場から熊本地震における対応についての報告がありました。また、岸本和美兵庫県健康増進課健康政策班主幹は、保健師の立場から現地で行われた活動と実際の状況について報告がありました。加藤寛兵庫県こころのケアセンター長は、ひょうごDPA Tの立場から活動内容と問題点を報告しました。

その後、矢田部裕介熊本県精神保健福祉センター次長も含め、演者全員で「災害後の外部支援のあり方を巡って」をテーマに討議がなされました。

外部からの援助にあたっては、共感性と想像力の欠如が様々な葛藤を生み出すこと、今後の災害を踏まえた受援体制の構築、派遣者への組織的なサポートの必要性など、有意義な意見交換をすることができました。